

平成28年度

福島県環境影響評価審査会 議事概要

(平成28年9月5日)

1 会議の名称

平成28年度第4回福島県環境影響評価審査会

2 日時

平成29年9月5日（月）

午後1時30分開会 午後3時閉会

3 場所

杉妻会館4階 牡丹の間

4 議事

(1) (仮称) 三大明神風力発電事業環境影響評価準備書について（事業者による説明と質疑応答）

(2) (仮称) 田人風力発電事業環境影響評価準備書について（事業者による説明と質疑応答）

5 出席者等

(1) 環境影響評価審査会

伊藤絹子委員、稲森悠平委員、岩田恵理委員、川越清樹委員、齋藤貢委員、濱田幸雄委員、山本和恵委員、由井正敏委員 以上8名

(2) 事務局

環境共生課長 遠藤洋、主幹 荒井浩之、主任主査 柴田久男、副主査 新村博、技師 菊地優也、以上5名

(3) 傍聴者 7名

6 議事内容

(1) 開会

(2) 議事録署名人の選出

(3) 議事

ア (仮称) 三大明神風力発電事業環境影響評価準備書について（事業者による説明と質疑応答）

イ (仮称) 田人風力発電事業環境影響評価準備書について（事業者による説明と質疑応答）

ア、イについては事業者が共通の計画のため、一括して審議した。

事業者から、同方法書の概要説明及び事前に審査会委員から出された意見に対する回答がなされた後、質疑応答が行われた。

質疑応答は以下のとおり。

(三大明神について)

【岩田委員】

風力発電機の塗装について、周囲の環境になじみやすいように彩度を押さ

えた塗装とすることと、鳥類からの視認性を高める措置は折り合いがつくのか。具体的にはどのようなことを考えているのか。

【事業者】

鳥類からの視認性については、例えばブレードに目立ちやすい色を付けるとか目玉模様を付けるなどの対策が考えられる。一方で周辺環境になじみやすくするためには、灰白色にするなどが環境省のガイドライン等で提案されているので、有識者の意見等も踏まえた上で考えていきたい。衝突確率は風車ごとに異なるので、衝突しやすい風車については目立つ塗装をするが、そうでないものは色を抑えるといったやり方はあると思う。

【岩田委員】

どの風車にはどういう塗装をするかといったことは、評価書に書かれるのか。

【事業者】

今の段階ではまだわからないので、はっきりとは言えない。

【議長（稲森会長）】

先ほどの説明では景観への影響は小さいとのことだが、何を持って判断したのか。

【事業者】

景観対策ガイドラインの知見を踏まえ、これまでの事例も参考に判断した。

【議長（稲森会長）】

コウモリについてだが、いろいろなガイドラインが出ているので、それをもとに、事後の確認だけでなく、事前にも衝突がないように最大限の工夫を考えていただきたい。

【山本委員】

景観に関し、広い範囲に何台も設置された場合の心理的な影響について研究されている例などはないか。

【事業者】

そういった論文等は現在把握していないが、他事例等も踏まえながら知見を蓄積して検討したいと考えている。

【山本委員】

建設機器の選択については、低騒音の機器を使用するということだが、風車についてはどのように選定するのか。

【事業者】

現時点ではまだ機種決定していないが、国内外のメーカーのうちで騒音レベルのなるべく低いものを選定することとしている。補足だが、今回の予測評価においては騒音レベルが高めのもののデータを用いており、今回の予測結果はより安全側であると認識している。

【濱田委員】

施設稼働時の騒音の予測結果だが、昼間より夜間に高い地点があるのだが、何か人工音源等があるのか。

【事業者】

近くに民宿があり、夜間、発電機を回した関係で影響を受けている。また、その地区は周辺に河川があり、その影響を一部受けていると考えられる。

【濱田委員】

風車の影について、状況に応じて対策を検討することだが、対策例として具体的にどんなことが考えられるか。

【事業者】

当社の他事例だが、ある一軒で室内において影が気になるということで、雨戸とカーテンを付けさせていただき、御了解いただいた例がある。

【山本委員】

風車から1km圏内に住宅があるので、事後調査として住民のヒアリング調査を加えてはどうか。

【事業者】

現時点では予定していないが、住民から問い合わせ等があれば対応させていただきたいと思う。

【山本委員】

事後調査項目に加えることは考えないのか。

【事業者】

検討させていただく。

(田人について)

【岩田委員】

廃棄物について、コンクリートくずとアスファルトくずはどのような過程で出るのか。

【事業者】

建設工事を行う際にコンクリートやアスファルトを使うが、現場で余剰物が出る場合がある。

【岩田委員】

どちらも同じ数量で書かれているが、予測値はこれで適当なのか、また、極力無駄を省いていただきたい。

【事業者】

概要設計の段階では、結果的に同じ数量になっている。なお、極力発生しないようにしたい。

【濱田委員】

送電線設備についてだが、東北電力の送電網から結構な距離があるが、事

業地内の架空や掘削は審議対象にはならないのか。

【事業者】

送電線については電気事業法で電気設備として取り扱われないため、アセス対象にはなっていない。なお、当初は1.6 kmほど離れたところに変電所を作り、東北電力の電線に繋ぐ予定だったが、田人の事業予定地の真南に別事業者が太陽光事業を建設中で、送電線計画について確認したところ、東北電力の負担金工事でそこまで電線を持ってくることがわかり、そちらとの連携を協議中である。

【議長（稲森会長）】

水生生物についてだが、事業区域付近に池や沼があるか。

【事業者】

区域内に谷地形がいくつかあり、そこに湿地や小さい池、放棄水田等がある。

【議長（稲森会長）】

それらへのダメージをできるだけ小さくするようにしていただきたい。話は変わるが、いろいろなところで風力発電を見ると、何基かあるうちで動いているものと動いていないものがあることがあるが、あれはなぜか。

【事業者】

一定方向から風が吹くなら全部が安定して動くが、方向によっては別の風車の陰になったりして止まるとか、あるいはメンテナンス中だとか、ほぼその2つが考えられる。

【議長（稲森会長）】

なるべく稼働するように、配置をよく考えていただきたい。

【事業者】

最近では3Dでシミュレーションができるようになってきており、その点は十分考えてやっていきたい。

【議長（稲森会長）】

低周波についてはどのような方法で予測しているのか。

【事業者】

メーカーから定格出力のときの周波数帯ごとの音圧レベルデータを提供してもらい、それらが距離によってどの程度減衰するかを計算している。なお、三大明神は平均風速8 m、田人は1.4 mを用いて計算している。

【伊藤委員】

鳥類の営巣期と非営巣期でかなり飛翔の程度が異なるが、バードストライクが年間どの程度発生するかは、平均するのか期ごとに分けて計算するのか。

【事業者】

全期とおして調査し、その中で平均し、年間でどのくらいそこを通るかを

算出し、解析している。

【伊藤委員】

そうすると、年間としては小さくても営巣期には非常に多く当たっているということになると思うのだが。

【事業者】

営巣期は9か月、非営巣期は1か月の調査期間をとっていることから、予測値に大きな差はでないと考えている。

(質疑終了)

(4) その他

今後の各事業における環境影響評価の手続きの予定、審査会開催の予定について、事務局から説明した。

(5) 閉会